

112 国吉坂の遺念火

このう、坂道があるんですよ。こつちから下に河原がある。河原からね、これ、キジムナー（木の精）は、大雨になってあつちに渡ることが出来なかったから、ある男がおんぶして渡ってくれたつて。「あんたのご恩は、（今暗いから、国吉坂といつて坂があるんよ。国吉坂といつて坂道。）あつち行ったらね、明かりを付けて見せるから」言うたから、あつち行ったら、向こうの反対の部落で大火事があつたらしい。あつたから、こつちまで明かりを付けて。

字武富 大城スミ

類話

字糸満 稲嶺盛亀、上原亀広
字阿波根 平田徳太

